

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391100021		
法人名	スクー株式会社		
事業所名	スマートホーム・パティオ		
所在地	釜石市小佐野町2丁目3番39号		
自己評価作成日	平成27年7月6日	評価結果市町村受理日	平成27年9月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp/03/i/index.php?act=on_kouhyou_detail_2014_022_ki_hon=true&amp;Ji_gyosyoCd=0391100021-00&amp;Pr_efCd=03&amp;Ver_si_onCd=022">http://www.kai.gokensaku.jp/03/i/index.php?act=on_kouhyou_detail_2014_022_ki_hon=true&amp;Ji_gyosyoCd=0391100021-00&amp;Pr_efCd=03&amp;Ver_si_onCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1
訪問調査日	平成27年7月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

同じ建物1階に小規模多機能居宅介護が併設しており、職員は兼任している。入居者も自由に行き来しており、合同でレクリエーションや外出等の活動も行っている。職員の資質向上のために外部研修への参加や自施設での研修活動も行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域住民と一緒に生活している環境の中に事業所があり、近隣には保育園や小学校があり運動会の招待を受け見学したり、園児の慰問を受けるなど地域交流が図られている。  
小規模多機能事業所が1階、2階がグループホームで職員は兼務しているが、利用者も自然に自分が過ごしたい場所で過ごし、また、行き来も行われている。利用者や職員共に気負うことなく生活している様子が垣間見られた。手作りの輪投げや、同じく手作りの魚釣りゲームが、グループホームの楽しい雰囲気にも馴染んでいる。道路を挟んだ消防署の存在は、防災や利用者の体調不良等緊急時にも心強い存在となっている。震災時には緊急の避難所となり、他の施設や地域の一人暮らしの高齢者を受け入れている。パティオ(中庭)の名前の通り地域の中庭のような場所となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は立上げ職員皆で作り上げ、毎朝のミーティングでの呼称とホール掲示により共有しながら実践につなげている。また新入職員への説明度に皆で再確認している。	理念は「笑顔と思いやりで、みんなの中に和」で、開所以来一貫している。利用者や職員共に、笑顔と思いやりのある温かいホームとなっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会会員となっている。近くに小学校・保育園があり、運動会見学、園児の敬老慰問等で交流している。	フラダンス、大正琴の慰問や、中学校からの職場体験などを受け入れている。近隣の小学校の運動会や、幼稚園からの歌や踊りの慰問もある。今年は、盆踊りの参加も検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々の見学が開設以来続いており、また運営推進会議等を通じて、認知症介護支援の実践を発信し、理解の一助となっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	併設の小規模多機能型との合同会議として定期開催している。現状の理解を得た上でご意見いただき、サービス向上への実効を目指している。	地域の情報提供を受け、サービスに活かしている。外部評価の結果を話し合ったり、また、職員の日常の様子からアドバイスを受け、援助内容の見直しが行われている。また、今年からグループホーム利用者家族の代表者を委員として委嘱し、参加してもらっている。会議は併設の小規模多機能型と合同で隔月に開催している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当課へのほぼ毎週の事務連絡から協力関係が継続され、また近所の生活応援センターなる支所的機関とは、地域や仮設住宅の高齢者ケア等において連携が図られている。	釜石市は、担当箱を利用し、そこに必要な書類等が入っていたり、提出書類を届けている。毎週のように足を運び、顔の見える関係が作られている。また、利用者の受け入れなどの相談もある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	契約書におけるサービス内容にて身体拘束を行わない旨具体的に盛っており、職員研修でも毎年取り組むこととしている。	日中は、玄関や窓を開放している。また、利用者の不意な外出に備え、ご近所にはグループホームについて説明している事もあり、利用者は見守りを受けている。職員の声掛けでも「ちょっとまってね」を少なくするよう取り組み、ミーティングで話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待の区分、定義や事例を学び、見過ごすことないように留意しており、職員研修でも毎年取り組むこととしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が成年後見人研修を受講済みで、独居であった利用者等には普段から必要性の検討に留意し、職員研修でも取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	疑問点の解消には必要な分時間を掛けて、またご理解頂ければ改めて何度も説明の上、納得頂いてから契約であったり改定の同意を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の面会を通じて意見・要望を承り、スタッフ間で話し合いながら施設運営に反映させている。運営推進会議に利用者及び家族の参加を得ており、その他の利用者状況についても2ヶ月に1回発行する広報にて情報提供している。	利用者からは日常生活の支援の中で、家族からは面会時に意見要望を聴取している。運営推進会議の委員として家族代表者も参加しており自由に運営に関する意見要望を話せる環境が出来ている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者も参加する、日々の申し送りやミーティング、毎月のスタッフ研修会等にて職員は率直な意見・提案を述べる機会があり、反映されている。	管理者と毎月開催するスタッフ会議、日々のミーティングなどで意見要望が話せる環境が出来ている。勤務時間もサービス中心にシフトを考慮している。浴槽が深いため、入浴中に不安定になるので、手すりを設置し、改善が図られたことなど、職員提案が、運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格に応じた手当の支給、勤続年数に応じた昇給等就業規則や給与規定に沿った労務管理に努め、個々の勤務状況の把握や希望休日の受付等環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験に応じて実践者研修を順番に履修し、毎月の職場研修や外部研修への参加も積極的に機会を設けている。未経験者に対しても初任者研修受講をしてもらい、スキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	被災した市内施設からの避難者受入の経緯から、利用者・職員の相互訪問や移管業務等で同業者とは厚い連携がなされている。また外部研修に参加し、同業者・多職種間交流することでも連携を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の自宅であったり病院や施設での様子を伺いに複数回また実地に赴く職員も複数訪問のうえ要望等に耳を傾け、チームケアの安心感を事前に創出するよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期の段階で、サービスの内容を出来るだけ分かり易く説明し、見学も重ねて頂いており、また家庭的な雰囲気から家族が相談しやすい環境を醸成するよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入後も前任担当のケアマネや入居前の利用サービス事業所等と情報交換に努め、現行サービスの是非やニーズの検討を繰り返している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の中で利用者一人ひとりが出来ることやその人らしい個性を発揮して頂いて、共同生活の時間の経過も味方にして互いに理解しあって支えあえるよう支援している。対峙する関係とならないようユニフォームは作っていない。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時は、居室でゆっくり過ごして頂いたり、日頃の連絡・相談を介して共に支援方法を考え、外出や通院の支援も協働できる関係の構築に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外の面会者も歓迎して出来るだけ来所頂けるよう勧め、馴染みの理美容店利用や外出の折々にドライブがてら思い出の場所をめぐる等努めている。	(事業所を)利用する前の自宅の隣人や友人が、面会に訪れることが多い。「海が見たい」「山奥のダムが見たい」など希望に沿ったドライブを行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	迷惑行為が多い利用者も分け隔てなく、利用者同士がもめてしまうことも恐れず、互いに理解や認めてもらいあえる雰囲気の醸成に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所からの震災避難利用者には、復旧後も交流を継続、また移管利用者については、環境変化を少なくするよう情報提供惜しまず事業所間協力している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段皆の中では話さない利用者も、入浴時やドライブの際等、時・場所・雰囲気・会話の場面を変えて聞き出す等工夫し、意向を確認するよう努めている。食事の希望も個別に把握している。	食事は何が食べたいかを聞いたり、仕事をしたいと希望している利用者は、茶碗洗いやモップ掛け、お膳拭き、テーブル拭きなど手伝っていただいている。また、墓参りに行きたいと話している時は、その事を家族に伝えたり、対応できる家族の居ない利用者は、職員と一緒に出かけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前の情報にとらわれず、日々継続して普段の会話から情報収集するほか、家族の面会を通じてこれまでの生活の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフノート活用から、日々の変化の情報を共有し、食事メニューや福祉用具活用等でも細やかな対応を心掛けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の全体カンファレンスや日常のケア、家族との連絡・相談及び担当者会議やモニタリングを基に介護計画を作成している。また利用者の状態に合わせて職員の勤務時間も臨機にずらして対応している。	3ヶ月に1回職員参加のモニタリング、半年に1回計画の見直しや、更新を行っている。家族からは、面会時に希望をお聞きし、利用者からは、日常ケアの中で職員が観察した資料を集約し、介護計画を策定している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録とスタッフノートの活用及び毎日のミーティングからスタッフ皆で情報を共有し、ケアの改善を実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族支援のほかにスタッフ支援によって外食や外出に出かけたりして、また併設の小規模多機能型との連携で通い送迎への利用者の同行から誘いの声掛けに協力して頂いたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	在宅から継続しての近所付き合い方々面会に来て頂き、また昔からのかかりつけ医師の訪問診療や往診等協力頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	サービス導入以前からのかかりつけ医とのつながりをそのまま尊重し、またかかりつけ以外の医療機関についても本人希望や症状に合わせて家族と調整や連絡を取りながら受診適っている。	以前からのかかりつけ医をそのまま利用している利用者が6名で、特に医療を必要としていない利用者もいる。ご家族の対応で通院する時にも、普段のバイタルチェック等を持参していただくなど、スムーズに受診できるよう協力している。また、薬局は、1ヶ所に集約している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師も介護職と共に日々の利用者ケアに当たって情報共有し、通院介助も介して主治医、薬局含めた各関係医療機関とも連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	本人の見舞いのほか医師、担当看護師やMSW等面談・相談しており、小規模多機能型併設のことから日頃退院者の利用調整・情報交換等からも連携している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですべてのことを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	近い将来の重度化が想定される方々の主治医や協力医療機関と相談しながら、本人・家族への説明等また職場内及び外部における重度化、終末期及び看取り等についてスタッフ研修を図り、布石としている。	終末期ケア及び看取りに関する指針がある。看取り介護についての同意書の説明を行い、同意を得ている。また、主治医や協力医療機関と相談しながら、ご本人やご家族の意向に添えるよう、話し合いを重ねている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な消防避難訓練のほか、救急救命講習の受講や職場における非常緊急時の対応等研修会を開催している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近隣施設との連携・協力関係を築いており、また消防署出張所が向かい隣でもあり、施設現況の理解を得て職員一同分かり易い指導を頂いている。	向かいの消防署や、母体となっているスクー株式会社(文化タクシーから改名しクルータクシー)、近所の自動車整備工場の協力体制が構築されている。また、災害時の避難所として近隣の公務員宿舎が避難所に指定されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「笑顔と思いやり」の精神で接遇し、認知症状によるその人の世界、言動を理解するように努め、矢庭に否定することをせず、人格の尊重に心掛けている。	戦時中の話を、職員と同年代のように会話していたが、職員は否定することなく笑顔で対応している。職員の温かい対応が感じられる。トイレから汚れたおむつを持ち歩くことがないように、入れ物を工夫している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が希望を話しやすい雰囲気作りに努め、行事等への参加、着衣選び、食べたいメニューや外出先等自己決定できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	無理な強要となることなく、普段と違った体調や気持ちの状況に合わせて、入浴機会や食事の場所・時間、刻み具合等もその人のペースを大切に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服や理美容、化粧品好み、男性であれば髭剃りの仕方等その人らしく出来るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おかゆ・刻み・トロミ対応や箸かスプーンか、かかる時間等も本人のその時々のペースに合わせて、職員も一緒に食事をとり、後片付けも出来る範囲で利用者と共にしている。	利用者はそれぞれのペースで食事をしているが、特に職員は個々の利用者のペースを見守り、介助しながらゆったりとした雰囲気ですべての食事をしている。職員が持参したフルーツを利用者にご馳走している姿が自然で、印象的であった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	調理担当にかかわらず職員が栄養・調理研修に順次参加し、健康管理を基として一人ひとりの状態に応じた食事、また効率よく水分補給できるよう好みに応じた飲み物の提供をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	協力歯科医院の往診あり、義歯等に不都合が生じた際はすぐに対応していただいている。また食後の口腔ケアを習慣化しており、口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	24時間の排泄チェック表を基に必要な方へは時間毎のトイレ誘導、また個別の尿意サインを見逃さないようにしてトイレでの排泄支援に努めている。	排泄チェック表を活かし、個々の排泄ペースを把握した上で、誘導をしている。年齢を重ねても、適切に誘導することで、オムツの使用量は増加することなく過ごしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操・散歩、活動を通して離床・運動機会を多くし、一人ひとりの便秘解消の経験・希望も尊重して食べ物や飲み物も自主的に摂って頂けるよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴に消極的な方が多いが、個別に工夫して誘い、また予定した入浴日にとらわれず本人が気の向いた時やチャンスを逃さず、また排泄汚染時等臨機に入浴対応している。	入浴は希望があれば、毎日でも入浴できる体制ではあるが、入浴を積極的に希望する利用者はなく、できるだけ利用者が気持ちよく入浴できるよう、声掛けやタイミングを工夫しながら、入浴していただけるよう対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	震災時に相部屋に慣れたり、居室よりホールで就寝した方が安心される方もいて、その人それぞれの落ち着く場所があり、尊重して対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬種をファイル管理し、看護職主体に職員皆で把握しながら、専用の薬局から日頃の配達適い、情報交換し、主治医の診断に資する服薬支援・確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除・洗濯や台所仕事等日常で一人ひとりに合わせた役割を担って頂き、また日頃塗り絵、花や野菜のプランター作り等趣味活動に楽しんで頂いたりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人・家族や地域の要望に沿って、日常の散歩や時節の花見、お祭り見物、紅葉狩りや墓参り等のほか震災後の復興見物にドライブに出かけたりしている。	5月位までは散歩に出かけていたが、暑くなり、現在は中断している。秋には散歩を再開したい。また、1階の小規模多機能で過ごしているグループホームの利用者は、外に自由にいられる環境により、精神的に落ち着いて生活できている。個別に出かけたい希望がある時は家族に連絡し、家族が対応している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個別の金庫と現金管理表を基に小口を出納管理し、毎月家族報告しているが、財布を持出して自由に買物して来る方、同行して支払い支援する方、好みを聞いて買物代行する方それぞれに応じて支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は家族等相手の意向を踏まえながら本人希望に合わせていつでも通話できるようにしている。手紙やはがきがたまに届くときもあり、読み聞かせ等の援助している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然で落ち着く雰囲気心がけてはいるが、入居者の作った絵等を壁に飾ったり、節句ごと季節感を出す飾付けをしたり、通い利用者や家族等来訪者が持って来る花をテーブルに生けたりもしている。	テーブルに季節の花が活けられている。願い事を書いた短冊や、利用者の作品が飾られている。季節ごとに水木団子やクリスマスツリー・お雛様など季節に合った飾り付けを行っている。また、テーブルの配置等、利用者の関係性に配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールは、テーブルについて皆とゲーム等するもいいしソファで一人テレビを見るのもよく、また小上がりの畳でおしゃべりや昼寝してもいいような造りになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はのぞき窓もなく遮蔽かない、置いて不都合ないものは持ち込み自由とし、使い慣れた時計や家具を持ち込む方もある。アンテナ線を引いているのでテレビも持ち込める。	位牌や仏壇を持って来ている利用者もいた。利用者の作品や、家族写真、好きな俳優のポスターを飾っている居室や、畳の部屋を希望する利用者は、和室を使用している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	併設小規模多機能との交流多く、エレベータも設置してあるが階段利用を運動兼での利用が日毎多くなっていて、波型手すりが有効活用されて安全を創出している。		